

## DVが起こる要因

なぜDVが起こるのでしょうか？そしてなぜ圧倒的に男性から女性へのDVが多いのでしょうか？主な原因は「ジェンダー・バイアス」だと言われています。ジェンダーとは社会的・文化的に作られる性差、バイアスは偏見のことです。「ジェンダー・バイアス」とは男らしさ・女らしさに基づく偏見のことです。

「男らしさ」というと「強い・リーダーシップがある・頼りがいがある・経済力がある」と考えがちで、どちらかと言えば女性よりも男性に期待が集まる傾向があります。逆に「女らしさ」というと「優しい・気が利く・料理が上手・素直・愛嬌がある」などと考えがちです。しかしこれらは男女で分ける必要はなく、個人がもっている資質や能力、努力で身につけることができるもので、すべて兼ね備えてよいものです。

さらに、この考え方が偏っていくと、「男らしさ」とは、「競争に必ず勝つ・弱音を吐かない・権力をもつ・常に闘争心を持つ・家族を養ってこそ男だ」、「女らしさ」とは、「従順・受動的・控えめでしゃべらない・男をたてる・頼る・依存する」という意識に繋がります。その結果、男が上で女が下という上下関係が

生まれてしまい、男性の中には、女性を自分の所有物として見てしまう人も現れます。そのような男性は、女性が自分の思い通りにならなければ、力で相手を支配しようとし、その手段として、自ら暴力を選びます。女性自身も「女性は従順で男性をたてるのが当然だ」「男性はちよつとくらい乱暴でもかまわな」という意識をもっていると、「仕方がない」「怒らせた私が悪いのだ」と考え、じつと耐えることを覚えていきます。こうしてDV加害者は「お前のせいだ」と女性に責任を押しつけ、女性はそのおかしさに気がつかないまま、常に夫やパートナーの顔色をうかがうようになり、自分自身で物事を決めることができなくなっていくます。まずは、社会や自身自身の中にしみ込んだジェンダーに気づくことが大切です。「女らしさ」「男らしさ」は社会が作ったものであることを理解し、自分がどうしたいのか、自分のことは自分で決めて、「自分らしさ」を考へることが重要ではないでしょうか。

## DV被害者は誰に相談をするのか

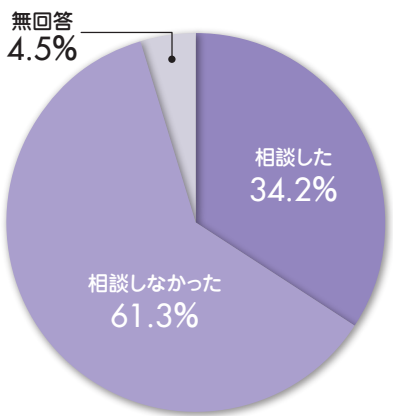
内閣府の調査では3人に1人の女性がDV被害経験者であるという驚く結

果が出ています。では、被害を受けた女性には誰に相談をしているのでしょうか？

大田区が平成21年に実施した男女共同参画に関する意識調査によると、1度でもDVを受けたことがある方に「これまで誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか」という質問をしたところ、相談した女性は約34%で、61%は「相談しなかった(できなかつた)」と答えています。(円グラフ参照)

さらに、「どこに相談をしましたか」という問いには6割弱(58.8%)の女性が「友人・知人」と答えており、次いで多いのが「家族」で54%でした。

## DVの相談経験(女性)



出典：平成21年大田区 男女共同参画に関する意識調査報告書より

この調査結果をみるとDV被害経験者は誰にも相談しないケースが圧倒的に多く、相談する相手は身近にいる友人や家族が多いことがわかります。

## DVを見分けるサイン

「私の周りでDVの話は聞いたことがない」「DVは新聞記事やドラマの中のできごと」などと決して思わないでください。

3人に1人が被害経験者で、約6割が誰にも相談をしていないという事実をふまえると、新聞等で取り上げられているDV事件は氷山の一角といえるでしょう。DVはけつして他人事ではなく、ごく身近な問題です。あなたの大切な友人や家族がひとりです。あなたのためにも、友人や家族の以前とは異なる態度を見逃さないようにしましょう。次に当てはまるようなことがあれば「もしかして悩んでいるのかも」と考えてみましょう。

- 今まで楽しんできた趣味など興味が示さなくなった。
- あなたが誘っても外出をしなくなった。
- 何かしら理由をつけて約束を急に断ることが増えた。
- いつもパートナーの機嫌や顔色をうかがっている。